

# 町小だより

令和3年  
9月28日  
No. 660  
御免町小学校

## 「修学旅行中止」の裏側で・・・

### ～子どもたちの笑顔に救われた2日間～

校長 藤井 聡

早いもので、2学期も始まってからもう半月が過ぎようとしています。2学期も皆様には様々なところでお世話になります。何卒、よろしくお願い申し上げます。

間もなく、新学期も始まろうとしていた8月24日、教育委員会から「修学旅行及び泊を伴う学校行事の対応について」という通知が届きました。感染症拡大に伴い、泊を伴う学校行事については、児童生徒の健康・安全を第一に考え、中止または11月以降（期限未定）までの延期を指示するものでした。・・・他の教育活動との兼ね合いや再度の宿泊先・見学先の手配が相当に難しいこと、冬の日本海の荒れた海・・・これらのことを考えると、11月以降への延期など、できるわけがありません。9月1日には、子どもたちが登校し、7日・8日が「佐渡体験旅行」です。自分の無力さを感じ、子どもたちに心の中で詫びながら「修学旅行中止」を決断しました。

しかし、この決断を機に、関係する職員が動き始めました。「修学旅行は中止となっても、子どもたちには『思い出』を残したい。」「子どもたちの笑顔が見たい。」「佐渡に行く以上の『学び』を習得させたい。」——そんな強い『思い』を抱きながら、アイデアを出し合い、短時間で検討を重ね、8月中旬に、2日間の「バーチャル佐渡体験」の計画をまとめることができました。つまり、修学旅行に行くはずであったこの2日間を単に「修学旅行中止」として終わらせるのではなく、『今まで誰も経験することのなかった特別な2日間』として、6年生の子どもたちに、せめてものプレゼントをしようという企画をしたのです。・・・しかし、この2日間の「バーチャル佐渡体験」の実施には、課題が山積していました。準備を進める途中、時折、くじけそうになりましたが、関係職員も私も、多くの方々の協力を得ようと走りました。・・・昼食の提供依頼、『体験活動』に代わる活動への協力依頼、学習に使う資料提供依頼・・・結果、すべての方が気持ちよく依頼したことを引き受けてくださいました。ありがたかった。本当にありがたかったです。そして、今回の「バーチャル佐渡体験」の核になることは『人の思いや生き方』であると、確信することができました。『人の思いや生き方』を子どもたちが感じ取ってくれるならば、今回のこの企画はうまくいく！そう自分に言い聞かせていました。

2日間の「バーチャル佐渡体験」を終えた子どもたちは、笑顔でした。「楽しかったあ！」「先生方、ありがとうございます。」そんな言葉に救われました。翌日、今回の企画に御協力くださった方々への感謝の思いを記した手紙や色紙を持参した子どもたちがいました。寄せ書きを作成した学級もあります。子どもたちが、『人の思いや生き方』に触れ、感じ取り、感謝の気持ちを表現していました。

修学旅行が中止となり、意気消沈していた子どもたちが、周囲の大人たちへメッセージを残しました。明るい未来が見えました。子どもたち、ありがとう。